

～ウランの力で命をつなぐ 最先端がん治療～

皆さんは「原子力」と聞いて何を想像しますか?原子力発電を思い浮かべる方も多いかもしれません。東日本大震災の原発事故もまだ記憶に新しいと思います。

原子力はウランを反応させることで生まれるエネルギーです。国内唯一のウラン鉱石産出の地、人形峠のある鏡野町にとって原子力は馴染みのある言葉ですね。

人形峠に施設を構える日本原子力研究開発機構(JAEA)人形峠環境技術センターと岡山大学は研究交流を進めており、2015年には鏡野町を加え三者間で連携協定が結ばれています。JAEAでは国際原子力機関(IAEA)の協力を得て、原子力に関わる様々な研究が行われています。IAEAは「核の番人」と呼ばれ監視役のイメージが強いですが、原子力の平和利用を進める役割も担っています。現在、いろいろな分野で原子力平和利用による技術開発が行われており、医療分野における放射線治療もそのひとつです。がんの放射線治療において、IAEAは世界保健機関(WHO)と協定を結んで、主要な役割を果たしています。

さて、がんの治療法として放射線が使われていることは皆さん既にご存知かと思います。放射線の中でも中性子を利用して治療を行うのが、ホウ素中性子捕捉療法です。体に害の少ない中性子とホウ素の薬を使った、身体に優しいがん治療法として研究が進められています。

この治療法の研究は岡山大学でも行われており、鏡野町のサポートにより寄附研究部門を設置し、2017年に「中性子医療研究センター(NTRC)」を設立しています。

原子は桁違いのエネルギーを秘めています。「ウランのふる里・鏡野町」が岡山大学と一緒にこの新しい科学を育てるゆりかごになり、町民の皆様にも体に優しく効果の高いがん治療法を届けられるよう、日々研究が重ねられています。

これから隔月にて「アトムのゆりかご ～ウランの力で命をつなぐ 最先端がん治療～」と題し、紹介していきたいと思いますので、どうぞお付き合いください。

岡山大学那須理事(NTRCセンター長)からは、日頃のご支援とセンター活動紹介の機会を頂けることへの感謝が伝えられていますので、併せてご案内させていただきます。



▲2017年2月 岡山大学との協定調印式の様子

お問い合わせ先 鏡野町まちづくり課 担当:小林 電話(0868)54-2982